

『 防災キャンプの実施 』

本校は、保護者と地元鶴見の皆様の多大なるご支援、ご協力を頂き、教育環境や教育活動の充実が推進されています。

本日（10月25日木曜日）、第2回目の教育環境整備が、PTAと地域の皆様とともに行われました。お陰様で、11月に行われる運動会と体育祭を美しい環境の中で、迎えることができます。ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

今年は、台風、記録的な大雨と突風等、複数回にわたり日本列島を襲い、大きな爪痕を残しております。また、大地震も毎年のように起きており、最近では北海道胆振東部地震が記憶に新しいことです。新聞等では、「災害大国日本」との総称で報道しており、今後ますます災害への備えが重要になっております。



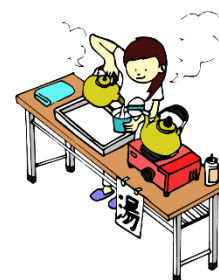
明日より1泊2日日程（26日金曜日～27日土曜日）で、昨年度に引き続き、本校を会場として「つるみ防災キャンプ～自助・共助・公助」が実施されます。参加者は、本校の児童生徒及び保護者、地域の皆様、そして本校職員合計108名となります。

今年は、現実的な地震を想定し、非常食等の喫食体験、段ボールやテント等を使用した避難所設営体験、防災をテーマにした工作等を主な活動内容としております。とりわけ、参加者の皆様で力を合わせ、互いに助け合い、協力し、少しでも快適な避難所運営をしていくことを主眼としております。

今から7年前、東日本大震災の際に、神奈川県災害派遣隊として、石巻市の避難所支援業務を行った経験があります。発生より時間が経っており、食糧の供給や電気、水道等のライフラインは完全復旧しておりましたが、津波により生活の基盤を失ったご家族が避難所生活を余儀なくされておりました。プライベート空間の少ない避難所生活の連続は、皆様に強い疲労とストレスを与えていました。一方で、過ごしやすいよう自治会が組織され、生活のルールや役割分担が確立しており、不便な生活を少しでも快適に過ごせる工夫がなされておりました。

起こりうる災害をいかに減災につなげていくか、それには日頃より準備、訓練が重要です。「災害大国日本」と呼ばれる現状の中で、災害への備えとして、「つるみ防災キャンプ」の実施です。

保護者ととも、地域に支えられた鶴見養護学校、チーム鶴見として、今後も災害対策にも取り組んでまいります。



校長 井出 和夫